

● 薬学科



● 医療栄養学科



● 薬科学科



# JOSAI UNIVERSITY

Faculty of Pharmaceutical Sciences 2007



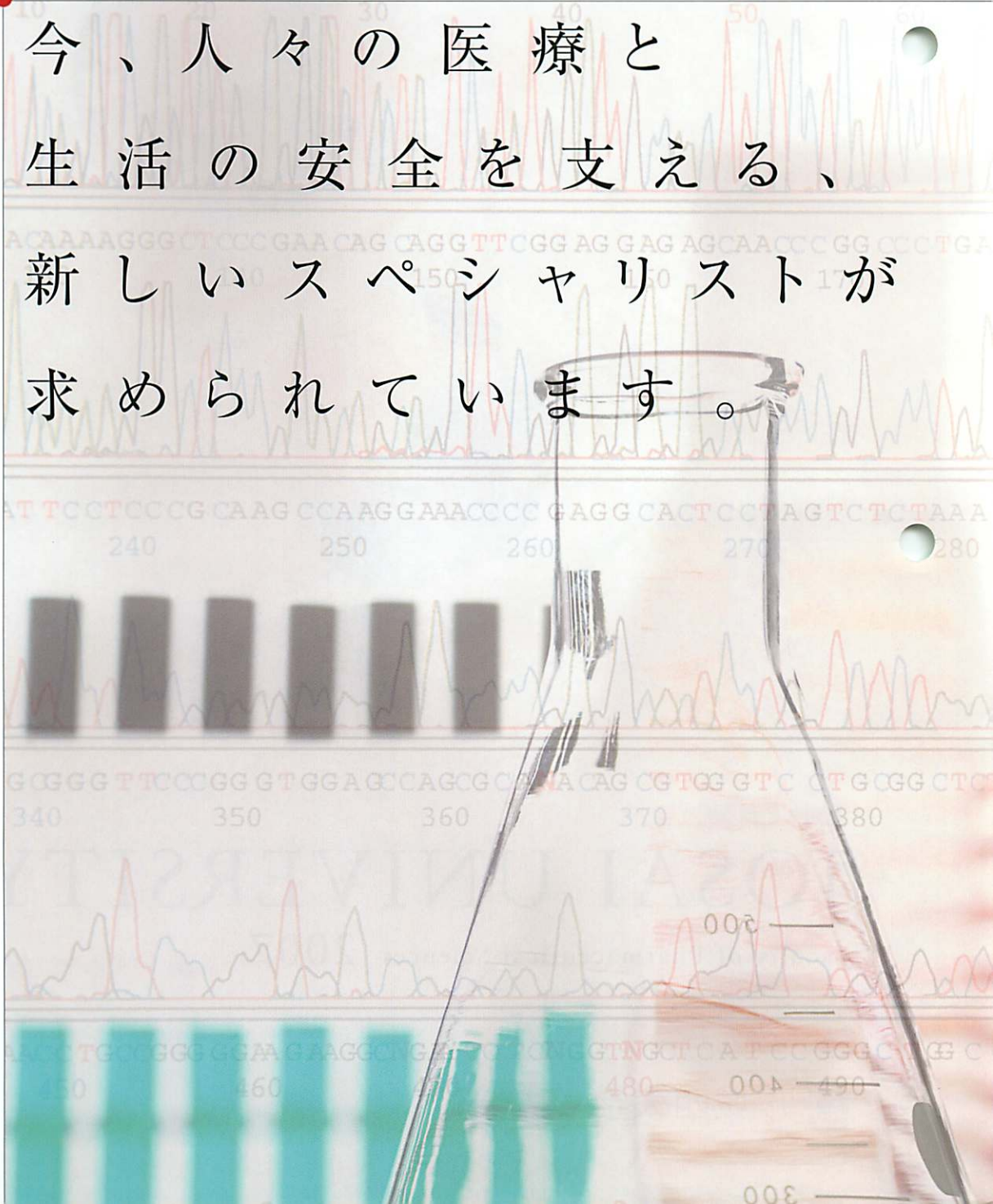
城西大学 薬学部

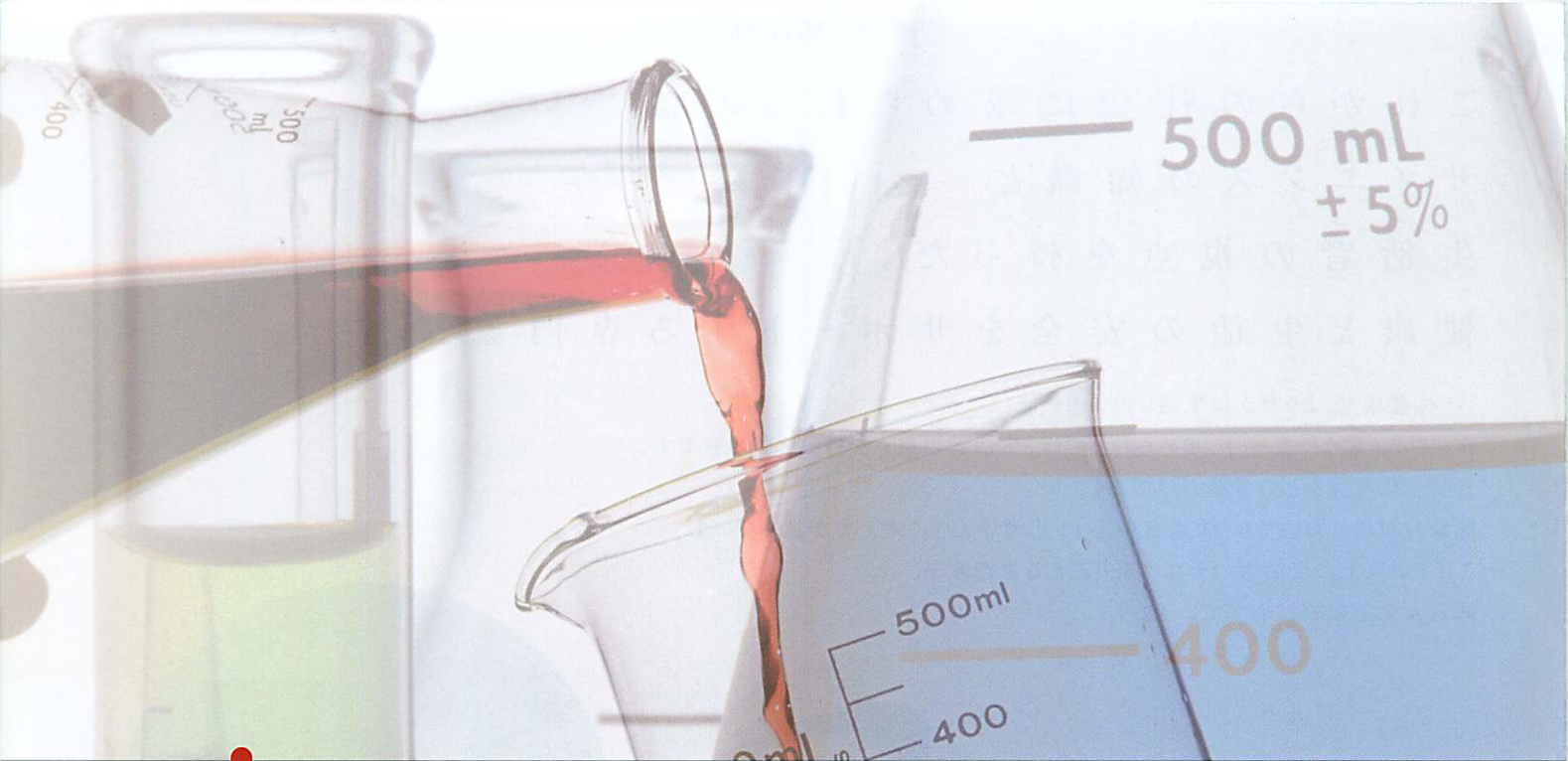


JOSAI UNIVERSITY

Faculty of Pharmaceutical Sciences 2007

今、人々の医療と  
生活の安全を支える、  
新しいスペシャリストが  
求められています。



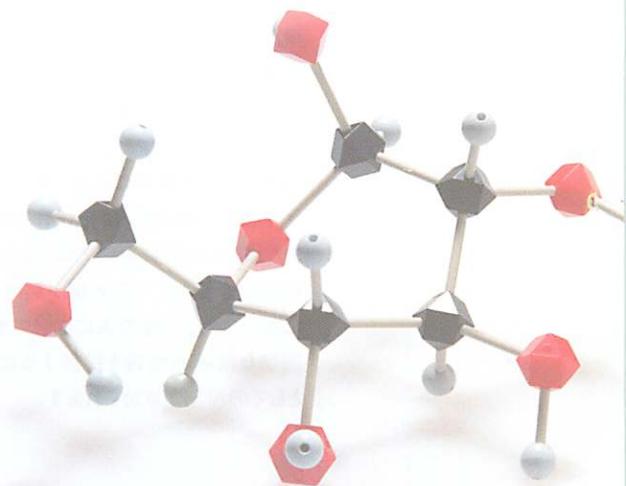


本格的な高齢社会の到来ばかりでなく、人口減社会へも突入した今、社会保障の面からも私たちの国の医療システムは、早急に変革されなければならない状況にあります。こうした中、まず「病気になるようにする」こと、そして「少ない薬物で効果的な治療を行う」ことに大きな期待が寄せられているのは言うまでもありません。さらに、こうしたことも背景にして、「より健康に、豊かに暮らしたい」と願う人々がますます増えていると言えるでしょう。

医療面では、新しい医薬品を開発したり、医療の最前線で服薬指導や栄養治療などで活躍したりすることのできる専門家のほか、ドラッグストアや各種福祉施設などで一般の生活者に向け適切な情報発信のできる人材が求められています。

また、生活面でも、BSEや鳥インフルエンザなどの報道から、安全で安心できる食品を求める声が高まっていますが、それ以上に大切なことは、不適切に設計された食事による健康被害を防ぐことです。さらに傷病者の治療効果を高める適正な食事設計ができる人材が必要になっています。一方で、ますます機能性を持った化粧品や食品が増加し、進化し、需要が高まる中で、製品の研究・開発だけでなく、その機能性を正確にアドバイスできる専門家の登場も期待されています。

つまり医療面でも生活面でも、あふれかえる情報、多くの製品やサービスの中から、よりよいもの、自分に合った適切なものを選びたいという人々が増えている現実があります。だからこそ今、こうしたニーズに応えられる、より高い専門性を持つ新しいタイプのスペシャリストが強く求められているのです。



これからの社会に求められるのは、  
サイエンスの知識と  
生活者の視点を持った、  
健康と生活の安全をサポートする専門家です。

いつも健康で、より豊かに生活したい――。

誰もがそう願う社会で今、求められるのは、生活者の視点を持った専門家です。

食品や化粧品などの分野だけでなく、

医療の現場においても「生活者中心」「患者中心」の考え方が進んでいます。

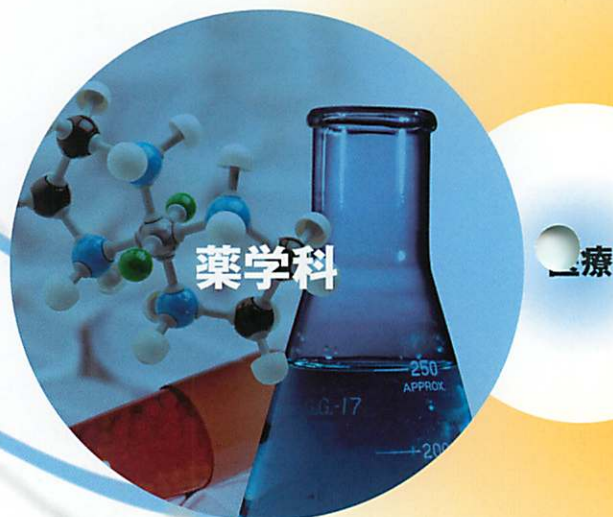
これまで以上に生活者のそばに寄り添える専門家を、

城西大学薬学部は育てていきます。

将来はこんな仕事が考えられます

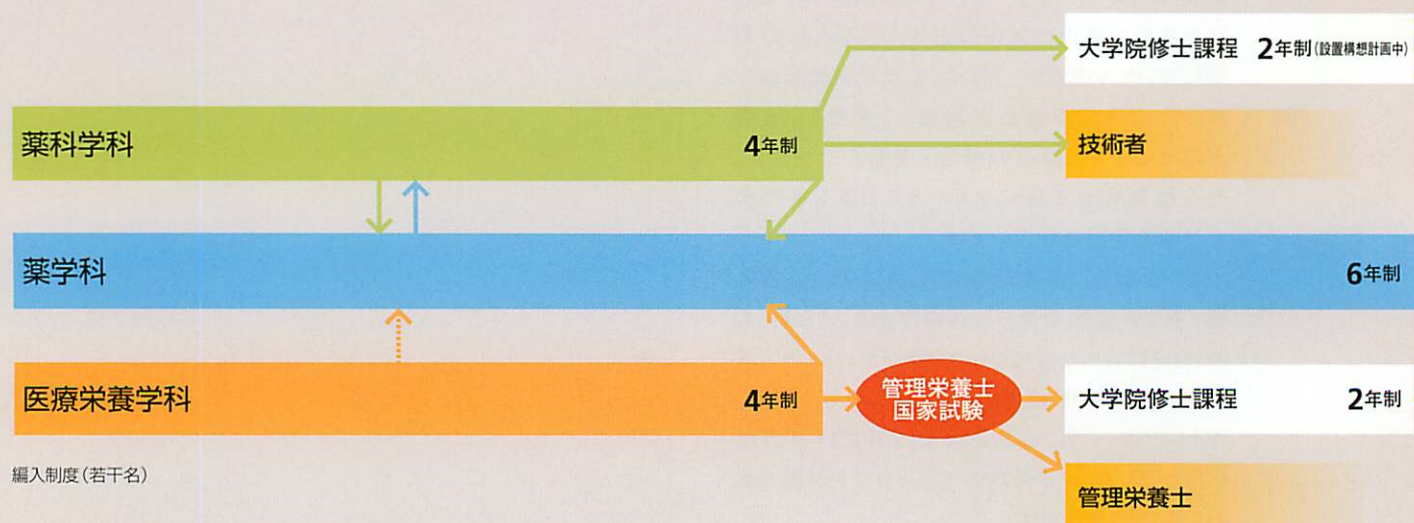
### 薬剤師

病院などの医療施設において、薬剤を調合したりするほか、医薬品の管理、患者の医薬品の使用記録を管理します。これからは、チーム医療がますます広がることが考えられるため、薬の専門家として治療に携わったり、患者への服薬指導など病棟業務にも深く関わったりすることになるでしょう。医師には医薬品情報 (DI) を提供したりします。また、福祉分野においては、高齢者関連施設や民間の福祉関連企業などでの活躍が期待されるほか、ドラッグストアにおいても、一般の人に向けて健康や介護などの情報や適切な医薬品情報を提供するなど、生活に身近な専門家としての役割が求められます。



## 学びのフロー

将来目標に対して、多岐にわたる学びが用意されています。



編入制度 (若干名)



## 医療栄養学科

### 管理栄養士

将来はこんな仕事が考えられます

できるだけ医療費をかけずに高度な医療を提供できる体制づくりが進められている今、医療現場における管理栄養士への期待はますます高まっています。管理栄養士は適切な食事設計により疾病からの早期回復を図り、健康状態を維持できるよう栄養指導を行うほか、薬物との相乗効果を高める「栄養治療」も行うことができます。

しかしこれまで、管理栄養士の多くが家政系・農学系の教育機関で養成されてきたため、こうした医療現場ではなかなか活躍できませんでした。患者中心の医療を実現するためにも、一人ひとりの患者に対応できる、薬学的知識・技術を持った管理栄養士が強く求められているのです。

食

生活

より高度に、複雑に進化を続ける食品や化粧品の分野では特に、生活者の視点から安全を守る専門家の登場が期待されていると言っていいでしょう。製品の研究・開発はもちろんのこと、その「使い方」なども含めた適切な情報提供など、企業と生活者の間に立ち“通訳”できる専門家が求められています。また、発展を続ける各種製品に対して、評価できる眼も必要です。こうした人々の「生活における安全」を保障するスペシャリストが、これからの日本にはますます必要になってくるのではないかと考えます。

さらに、日進月歩の薬分野においても、MR(医薬情報担当者)の活躍が期待されます。

### 薬科学技術者

将来はこんな仕事が考えられます



## 薬科学科

高度な技術者

科目等履修生 1年

薬剤師  
国家試験

大学院博士課程

3年制(設置構想計画中)

研究者

薬剤師

大学院博士課程

4年制(設置構想計画中)

研究者

大学院博士課程

3年制

研究者

# 薬学科

医療システムの  
変革に対応できる  
高度な知識・技能を持つ  
薬剤師を養成する

6年制

## ● 学びの特色

医療人としての倫理観、薬剤師としての責任感、高度化する薬剤師の仕事を支える基礎知識・技能、実務で要求される専門知識・技能を養います。

服薬指導や医療チームでの活躍を念頭に、コミュニケーション能力の向上、他医療スタッフとの連携にかかわる科目を充実させています。

地域医療に貢献することを前提に、医療制度にかかわる科目を充実させています。

栄養学系科目、食品機能学系科目、食品医薬品相互作用論などの科目を設置し、臨床または医療の場での管理栄養士との連携や、服薬指導において食と薬の関係等の情報提供が可能となるよう配慮しています。

薬毒物中毒への対応、化粧品・香粧品の開発、食品・医薬品の開発にかかわる科目を充実させ、将来ますます広がるだろう薬剤師の活動に対応しています。

● こんな薬剤師の育成をめざします

医療人としての  
強い自覚と行動力を持つ  
薬剤師

薬剤師は、  
人々の健康を支えるプロの一員としての自覚、  
医療人としての倫理観、  
薬剤師としての責任感を  
キチンと持って  
行動できなければなりません。

指導的立場に  
立つことのできる  
薬剤師

チーム医療の現場では、  
時として薬剤師が先頭に立って  
指導することもあります。  
医師や看護師とスムーズに連携し、  
服薬指導などで技能を發揮します。

地域医療に貢献できる  
薬剤師

薬剤師の活躍の場は、  
今や医療施設や調剤薬局だけでなく、  
一般の人が日常的に訪れるドラッグストア、  
福祉施設などにも広がっています。

関連する  
広範な分野で活躍できる  
薬剤師

今後ますます発達する化粧品・化粧品、  
食品や医薬品の開発においても、  
薬に関する高度な知識と技能を持った者は  
広く求められています。

栄養学・食品機能学の  
素養を有する  
薬剤師

病気の治療だけでなく、  
予防や健康維持の点からも、  
服薬指導などにおいて、  
薬と食の関係を踏まえた上で  
正確な情報提供をしなければなりません。

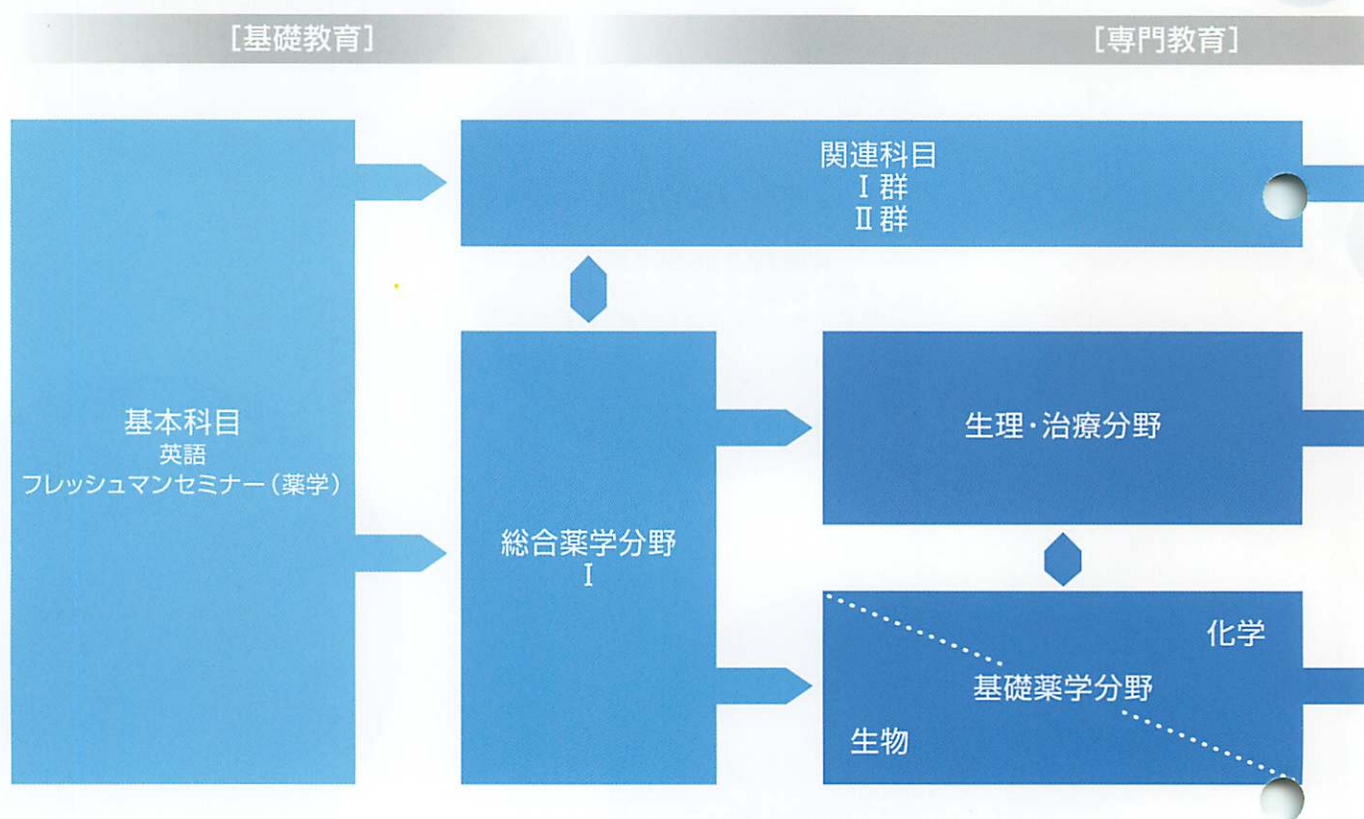
6年制

# 薬学科



Department of Pharmaceutical Sciences

## カリキュラムの流れ



## こんな科目を学びます

### 医薬品概論

専門科目:基礎薬学分野

有機化学(薬化学)を修得する前に(これらは2年次以降に配当)、各種疾病と個々の患者に対応する薬物群や薬の選択法、またそれらの投与方法や各々の医薬品の使用上の注意について、特に化学的なことについては簡略化して、医薬品の基本的知識と技能を修得する。

### 解剖学 I

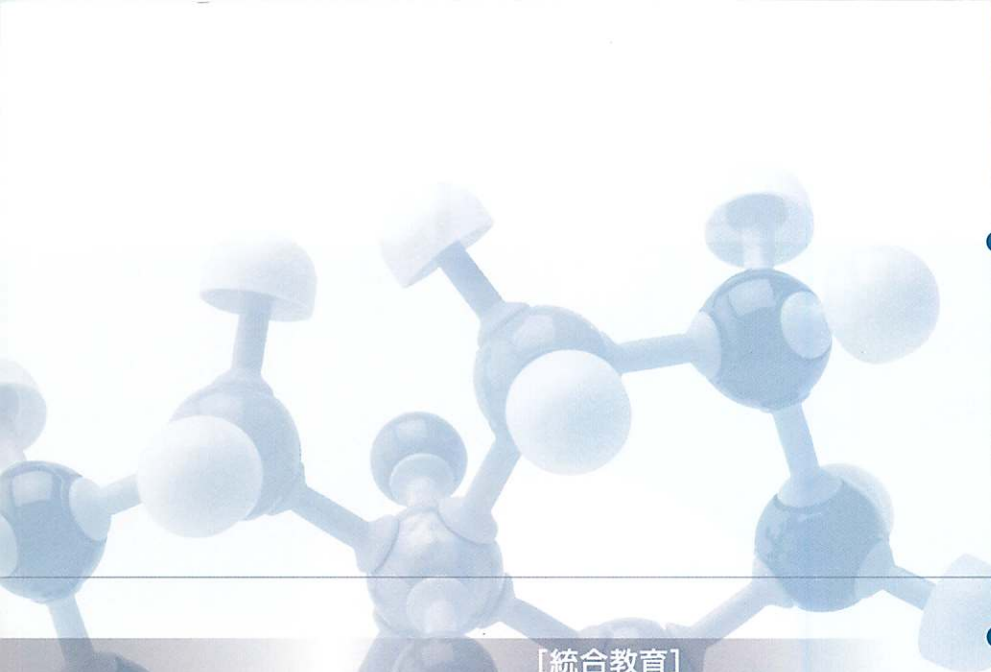
専門科目:生理・治療分野

生命体の成り立ちを個体、器官、および細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。特に、ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態、および体内での位置、さらには各臓器の役割について概説できるようになる。

### 病態論演習 II

専門科目:生理・治療分野 II

将来、適切な薬物治療に貢献できるようになるために、心臓と血管系疾患、血液・造血器疾患、さらには消化器系疾患についての基本的知識と技能を修得する。また、これらの疾患の治療に用いられる代表的な医薬品と薬物治療に関する基本的知識についても修得する。



[統合教育]



医療薬学分野  
(実務実習を含む)

総合薬学分野Ⅱ

**コミュニケーション・プレゼンテーション**  
専門科目:総合薬学分野Ⅱ

医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者や同僚だけでなく、地域社会の信頼関係をも確立できるようになるために、相手の心理、立場、状況を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。

**コミュニティファーマシー論**  
専門科目:総合薬学分野Ⅱ

コミュニティファーマシー(地域薬局)のあり方と業務を理解するために、地域薬局の役割や業務内容、医薬分業の意味、さらにはセルフメディケーションなどに関する基本的知識と、それらを活用するための基本的態度を修得する。

取得できる資格

**薬剤師の国家試験受験資格**

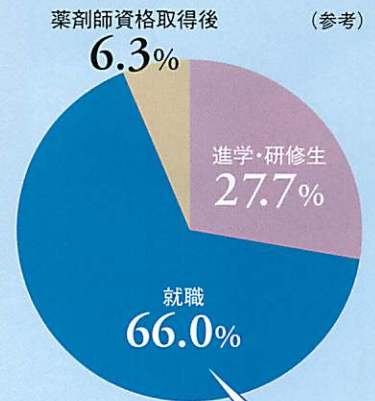
※薬剤師資格を取得することで、医薬部外品、化粧品または医療用具の製造(輸入販売)所の責任技術者、毒物劇物取扱責任者、薬事監視員、麻薬管理者、食品衛生管理者、食品衛生監視員、環境衛生指導員、検疫委員、船舶に乗り込む衛生管理者、外国製造医薬品等の国内管理者などの業務を行うことができるようになります。

将来の進路

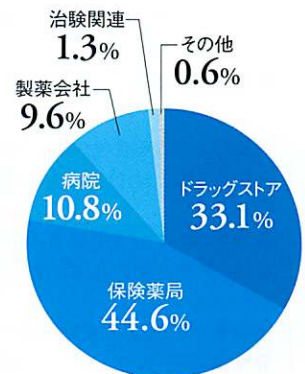
- 病院等医療施設
- 訪問看護センターなど  
地域福祉関連施設
- 調剤薬局
- 医薬品メーカー
- 食品メーカー
- 化粧品メーカー
- 大学院進学 など

卒業生の進路

(旧薬学科・製薬学科 薬剤師養成課程)  
\*平成17年3月卒業時



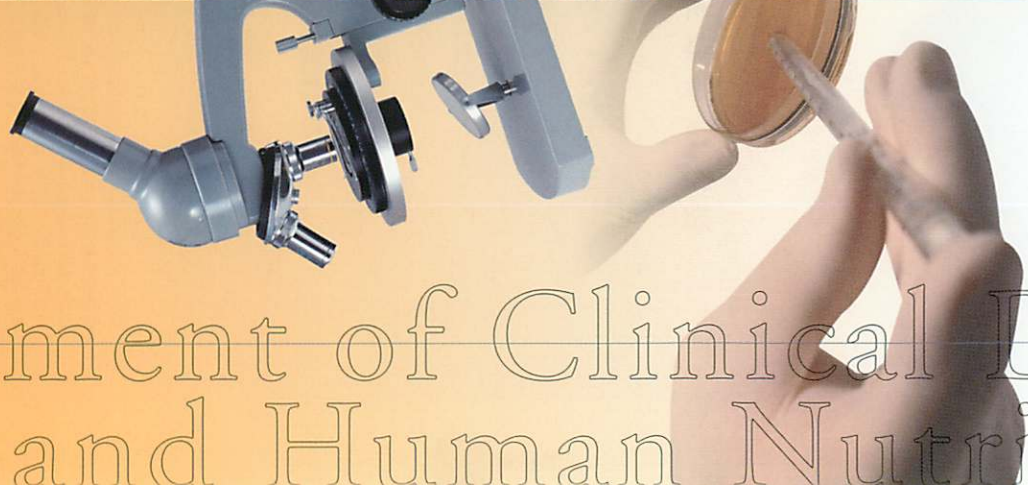
就職者の職種内訳



※旧課程の卒業生の進路を参考までに掲載しました(平成18年4月入学生より薬剤師養成課程は6年制となっています)。

# 医療栄養学科

チーム医療に活躍できる  
参加型医療の素養を身につける  
医学・薬学の素養を養成する  
管理栄養士の養成を目的としています。



# 4年制

## 学びの特色

- これまで家政系、農学系教育機関で行われていた管理栄養士養成課程を、わが国で初めて薬学部内に設置した利点を最大限に活かし、未来を見据えた病気の予防と治療に関する教育プログラムを充実させています。
- 医療現場の要請、現状の把握、新しい治療法に対応した栄養指導、栄養管理を自ら構築することのできる管理栄養士の養成を目的としています。
- 栄養学を単なる食物栄養の学問としてとらえるのではなく、人間の健康における栄養の意味を理解する学問としてとらえる視点を重視した内容を学べるよう配慮しています。
- 医療の場における傷病者の栄養管理には薬物治療に関する知識が不可欠なため、薬理、薬物治療の基本的科目を必修とし、より専門的な薬物治療の実践も学べるよう配慮しています。
- 傷病者への適切な栄養指導や、多くの医療スタッフとの連携が必要となることを念頭に、看護学演習、カウンセリング演習などを必修科目として充実させています。
- 一人一人の栄養状態を評価し、個人に対応した食事設計ができる管理栄養士の養成を目的としています。

## こんな管理栄養士の育成をめざします

### 個別栄養アセスメント のできる 管理栄養士

管理栄養士は、  
病気の起こる仕組みをよく理解した上で、  
その患者の栄養面での影響を評価し、  
どのような栄養指導、  
栄養管理が必要かを考え、  
個人に合わせた食事設計を行います。

### 医療人としての 自覚と素養を持つ 管理栄養士

栄養面での専門家として、  
薬物治療に対応した栄養指導、  
栄養管理を行うほか、  
将来的には栄養治療にも携われるような  
幅広い知識・技能を  
持たなければなりません。

### 地域医療に貢献できる 管理栄養士

福祉分野において、  
QOL（生活の質）の向上を意識し、  
生活習慣病を抱える人や  
在宅医療の患者・高齢者に、  
一人一人に対応した、  
病気に配慮したおいしい食事を  
提供します。

### 疾患の成因、 病態がわかる 管理栄養士

チーム医療の現場で  
活躍する管理栄養士は、  
治療、快復時のサポートに携わるため、  
病気の仕組みばかりでなく  
症状なども  
深く理解している必要があります。

### 食品機能・栄養学を 理解した 管理栄養士

薬と食物の間にある  
「機能性食品」や「健康食品」の  
開発や販売において、  
新しい製品を企画したり  
利用者個々の状況に合わせた  
適切な情報を提供します。

### 薬物と食品の 相互作用が理解できる 管理栄養士

最先端のチーム医療の場で、  
人間一人ひとりの遺伝子の違いに配慮した  
「テーラーメイドの栄養管理・栄養治療」を  
開拓できるような活躍を  
期待されています。

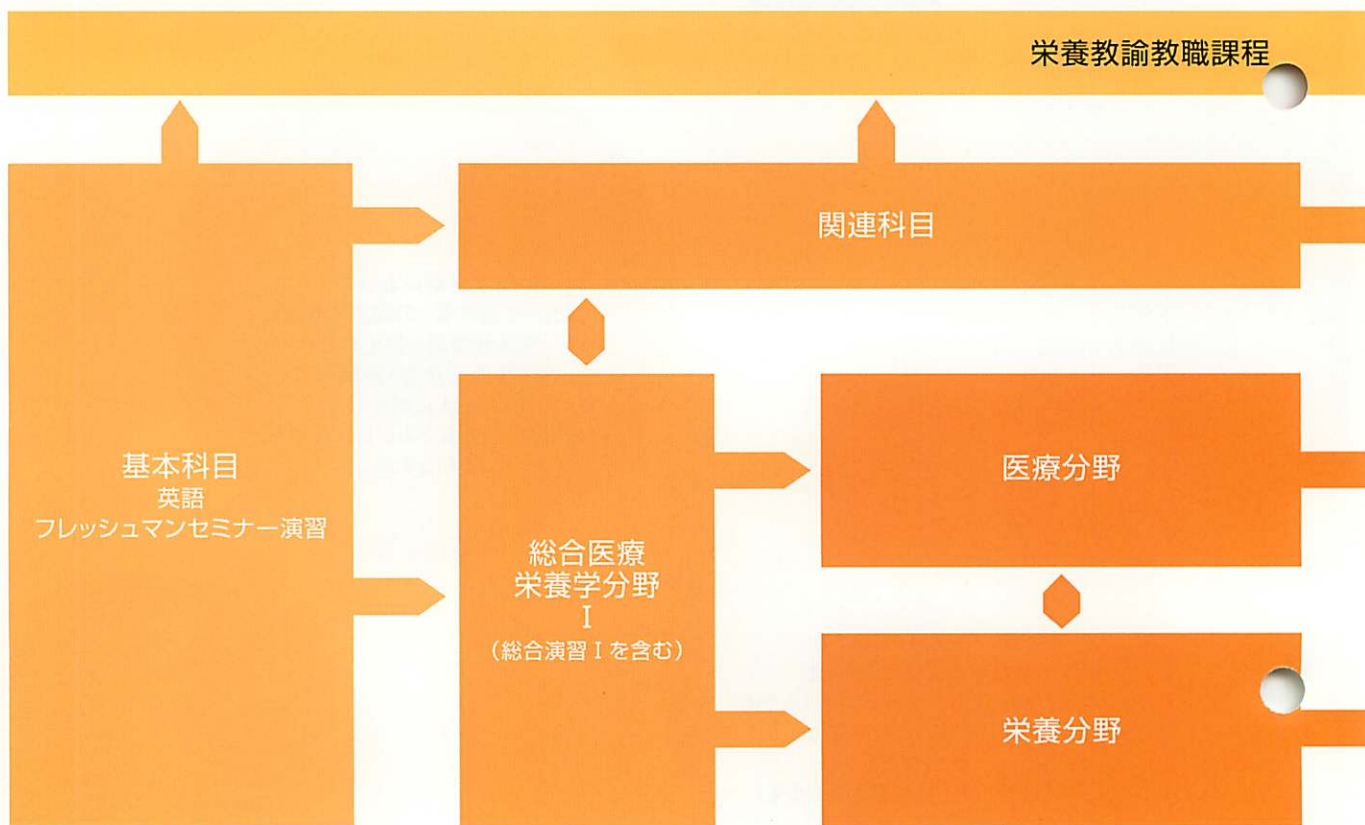
4年制

# 医療栄養学科

## カリキュラムの流れ

[基礎教育]

[専門教育]



## こんな科目を学びます

### 食品薬品作用学

専門科目:医療分野

食品が薬物の作用に与える影響を理解するために、薬物および食品の体内運命と働きについての知識を深め、それらから相互作用が生じる過程と原因について修得する。また、現在知られている薬と食品の相互作用の具体例、薬物療法と食事療法の相互作用に関する基本的知識を修得する。

### 臨床栄養学 I

専門科目:医療分野

傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養アセスメント、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について修得する。また医療・介護制度やチーム医療における役割について理解する。

### 食品化学

専門科目:栄養分野

食品の化学的側面を理解するとともに、栄養素供給源としての働き(栄養性)、生体機能調節物質供給源としての働き(食品機能性)、食品をより効果的に摂取するための調理加工特性を理解するために、食品成分の科学的性質と物理的性質に関する基本的知識を修得する。



[統合教育]



**応用栄養学**

専門科目: 栄養分野

個人および集団の栄養状態の評価・判定、さらに適切な栄養管理の実践を行うために、食事摂取基準の基本的な考え方を理解し、説明できるようにする。また、エネルギー、脂質、タンパク質など個々の栄養素の摂取基準がどのような根拠に基づいて定められているかを理解し、説明できるようにする。

**カウンセリング演習**

専門科目: 総合医療栄養学分野

健康管理のために対人援助は、主に患者指導、保健指導と呼ばれてきた。しかし、患者の意思決定を妨げている心の問題や感情を扱い、患者自身が気づき、自ら決断できるよう支援することのできるカウンセリング技法を身につける必要がある。人と接する上で方法を学び、実習を通して知識としての学問を日常生活の中で考え、応用していける技術と態度を修得する。

**取得できる資格**

**栄養士**

**管理栄養士国家試験受験資格**

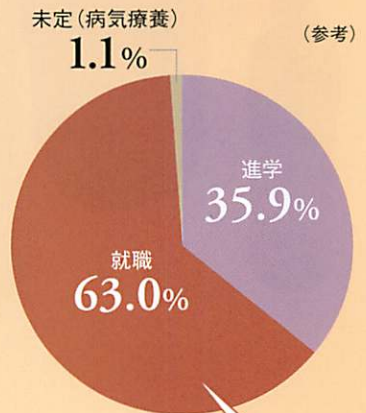
※ 本学医療栄養学科は厚生労働省から指定・認可を受けた栄養士養成施設ならびに管理栄養士養成施設です。卒業することにより、都道府県知事から「栄養士」免許が交付されます。また、管理栄養士国家試験が受験できます。

**将来の進路**

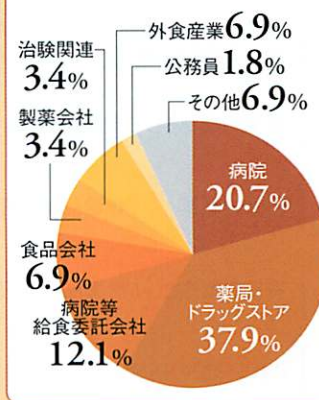
- 病院
- 給食・外食関連企業または施設
- 医療・介護福祉施設
- 国家・地方公務員(栄養士)
- 高齢者施設
- 学校栄養職員
- 保育所
- 専門学校・短期大学・大学の教員
- 保険(調剤)薬局
- 非営利団体職員
- ドラッグストア
- 大学院進学 など
- 製薬会社
- 食品メーカー

**卒業生の進路**

\*平成17年3月卒業時



**就職者の職種内訳**







こんな技術者の育成をめざします

生活者の視点から  
食品・化粧品・医薬品の  
安全性に関わる技術者

進化を続ける食品・化粧品・医薬品の分野において、常に“使う人が安心できる”ように安全性を考え、維持できる技術者が今、もっとも求められています。

医療用食品の設計・開発に関わる  
ことのできる技術者

患者のニーズに応える医療、すなわち「患者中心の医療」がめざされる今、医療用食品においても、ただ単に目的に合った食品ではなく、より美味しく摂りやすいもの、扱いやすいものの開発が進められています。

化粧品の開発に関わる  
ことのできる技術者

多様化する消費者の要望に応えるために、新製品の開発から関われる専門家が求められています。また販売においても、使い方だけでなく成分の知識が豊富なプロフェッショナルが今後必要とされてくるでしょう。

医薬品の開発に関わる  
ことのできる技術者

医療施設などで医師の監督の下に使用されるものだけでなく、ドラッグストアなどで販売される一般医薬品など、医療現場や一般消費者などのさまざまなニーズに合わせて、医薬品は日々進歩しています。

薬剤師・管理栄養士との  
連携を前提とした  
医療情報に関わる  
ことのできる技術者

チーム医療を前提とした医薬品の情報を医療従事者に提供するMR(医薬情報担当者)の活躍、そしてまた、機能性食品に関する情報を消費者に提供するNR(栄養情報担当者)の活躍も期待されています。

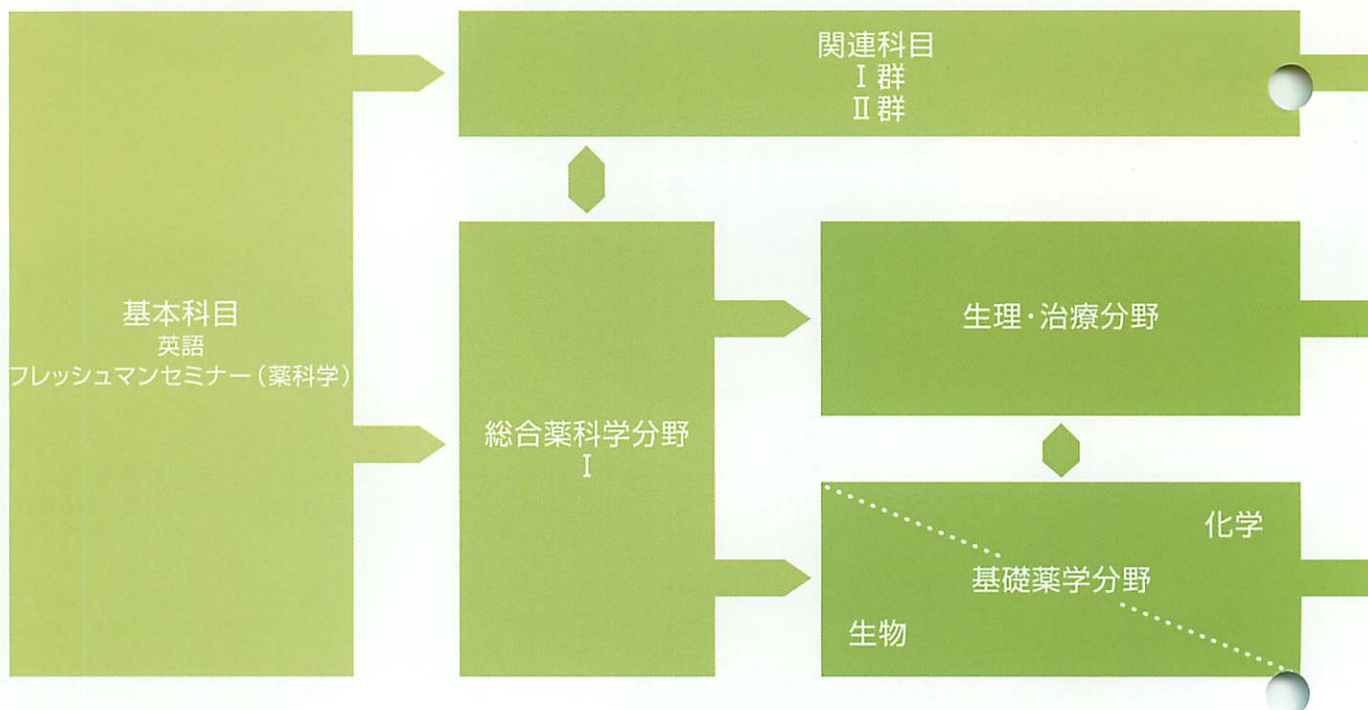
4年制

# 薬科学科

## カリキュラムの流れ

[基礎教育]

[専門教育]



## こんな科目を学びます

### 機能性食品科学

専門科目:生理・治療分野

食品には栄養素補給という機能(一次機能)以外に、美味しさを発現し、情動へも影響を与える機能(二次機能)、生体機能に働きかけ、体調調節ばかりでなく疾病の予防や生活習慣病発症に関わる機能(三次機能・食毒性機能)が存在する。本講義では、これら食品の機能とともに、「食」と「薬」の中間に位置する機能性食品のコンセプトについて理解する。

### 化粧品・香粧品学 I

専門科目:生理・治療分野

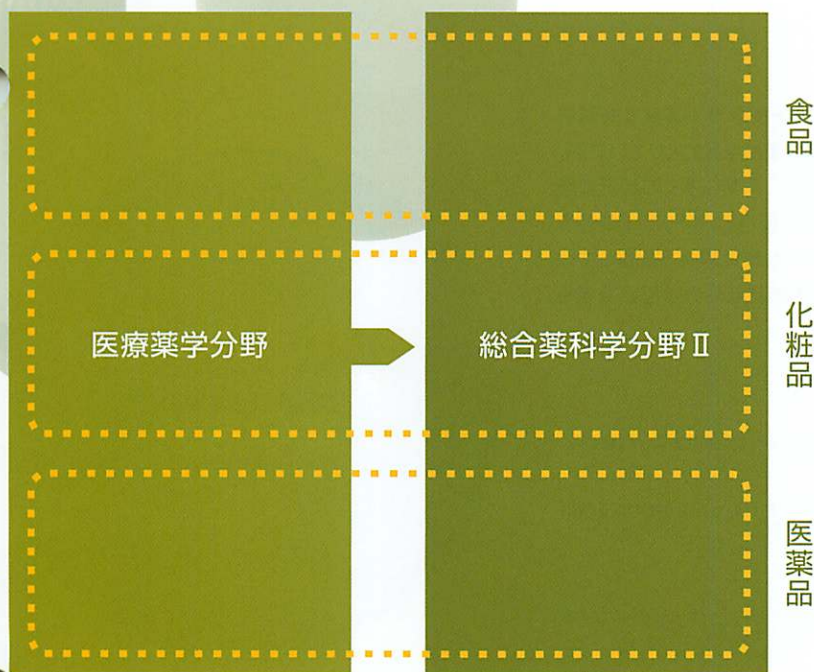
化粧品や香粧品を適用する部位の多くは肌である。そこで、肌(皮膚)の構造、機能、生理についての知識・技能を修得する。また、肌(皮膚)の不具合、老化などに対応するための方法論について学び、最終的には化粧品や香粧品の適正な使用法についての知識・技能を修得する。

### 医薬品・食品・化粧品マーケティング論

専門科目:総合薬科学分野

医薬品、機能性食品および化粧品に関し、個人(患者、医療従事者、一般消費者)や組織(病院、コミュニティーファーマシーなど)の目標を満足させる交換(商品売買)を創造するための、アイデア・製品・サービスのコンセプト、価格、プロモーション、また、流通を計画し、実行するプロセスについての知識、技能を修得する。

[統合教育]



**バイオスタティスティクス演習**

専門科目:総合薬科学分野

医薬品の開発、薬剤疫学(社会における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問)、薬剤経済学(薬の効果と必要とする費用に関する学問)などの領域において、研究の方法論の立案、得られた研究データの解析、およびその評価に必要な統計学の基本的知識と技能を修得する。

**遺伝子・バイオ医薬品論**

専門科目:医療薬学分野

近年では低分子有機化合物だけでなくタンパク質、遺伝子、さらには細胞までも医薬品として利用されるに至っている。そこで、これらを適正に利用するために、これらを用いる薬物治療に関する基本的知識を修得し、また、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的知識を修得する。

取得できる資格

医薬情報担当者 (MR)

栄養情報担当者 (NR)

毒物劇物取扱責任者

放射線取扱主任者などの受験資格

※薬剤師の国家試験受験資格について、薬学科への編入や大学院進学など、途中から進路変更しても取得できる道が用意されています (p.3,4「学びのフロー図」参照)。

将来の進路

- 大学院進学
- 製薬企業(研究開発、医薬情報担当者(MR))
- 医薬品臨床試験受託関連企業
- 化学系企業(研究開発)
- 食品企業・化粧品企業
- ドラッグストアーなど

企業からのメッセージ

企業から薬科学技術者への期待の声が寄せられています。

薬科学科の新しい試みに注目しています。ここで、将来の化粧品業界を支える人材が育つことを大いに期待しています

(化粧品メーカー)

食品の健康機能に対するニーズがますます大きくなる中で、機能性食品業界においてもこの分野の開発、事業を担える人材の育成が切望されています

(総合消費財メーカー)

生活者から見た「健康と美」の世界も選択肢が加速度的に増えています。そんな中、機能性食品・化粧品の正しい知識・情報を発信できる人材の育成は時代の要請にマッチしていると感じています

(製薬メーカー)

社会の新しい方向への発展に、  
貢献できる人材を育成する

# 大学院

Graduate School of  
Pharmaceutical Sciences

より高度な、そして多岐に渡る専門性を理解するために。  
多くの講義・演習・実習を通して、  
創薬の基礎研究から健康科学の研究・実務、  
さらには医療現場における薬剤師・管理栄養士の実務に至る  
広範囲の能力を向上します。

創薬に携わる研究者、および医療分野で高度な問題解決能力を有する専門技術者の養成を目的としています。そのため専門知識ばかりでなく、同時に多くの状況に適応可能な確固たる基礎知識の習得と、専門分野以外の幅広い視野の育成をもめざした教育課程を配備しています。なお、薬学専攻では、薬学部以外の学部出身者も受け入れています。

## ● 創薬化学分野

### 薬化学Ⅱ講座

反応性に富む2-メチレン1,3-ジカルボニル化合物を基質にして、種々の不斉炭素-炭素結合形成反応を試みる。

### 臨床薬物化学講座

抗癌剤の開発を構造-活性相関から追及する。また漢方薬の適正使用を把握し、臨床で活躍できる力をも養成する。

## ● 物性・物理化学分野

### 薬品物理化学講座

生体物質あるいはその類似機能を有する分子集合体(超分子)によるキラリティー認識機構を様々な観点から研究する。

## ● 生理活性・毒性分野

### 薬理学講座

消化器細胞の防御反応の調節をテーマに、培養細胞にある侵襲を加えた時、どんな遺伝子が動くかを調べる。

### 生化学講座

タンパク質、DNA等を広範囲に扱い、細胞増殖因子であるポリアミンの生理的役割の解明等に関する研究を行う。

### 衛生化学講座

薬物・毒物がヒトに与える障害に焦点を当て、薬毒物の代謝および排泄の機序の解明などをテーマに研究する。

## ● 薬剤学分野

### 薬剤学講座

薬物治療効果を最大限に引き出すことを目的に、薬物の投与方法、剤形の修飾・デザインなどの研究を行う。

創薬・医療分野において  
問題解決できる  
高度な専門技術者をめざす。

## 薬学専攻

薬・栄養の専門家として、今、  
社会から求められるものは、ますます深く広くなってきています。  
つまり、学部教育で習得した専門知識だけでは、  
問題に対応するにはもはや十分でないと云わざるを得ない現実が散見されるようになってきました。  
本研究科では、充実した講義・演習・実習を通して、より深く専門性を探求することはもちろん、  
専門以外にも幅広い視野を持つバランスの取れた人間性の育成をめざします。  
そして、創薬、食品開発、臨床、医療等それぞれの現場において専門家として貢献できる、  
そんな人材を養成していきます。

医療に直接関係した薬の専門家である薬剤師の職能、すなわち適正かつ安全な薬物療法の遂行等に関わる基本的な知識・技能を、自ら高めることができる場を提供します。医療の適正化と発展に寄与でき、医療人としての高い専門知識と見識を持てるように、医療の現場での学習に重点を置いています。就学には薬剤師免許を有することが必要です。

臨床や地域医療に貢献できる  
コ・メディカルとしての自覚を持った  
薬剤師をめざす。

## 医療薬学専攻

### ● 臨床薬学分野

#### 臨床医学講座

parkinsonism、不随意運動、基底核疾患の画像診断など、大脳基底核疾患における各種の病態・診断・治療を検討する。

#### 薬物治療学講座

標準的な薬物治療の課題などを発掘すると共に、患者に適した経鼻薬物送達システム等を実験研究的に作り上げる。

#### 臨床薬理学講座

講義・演習では、標準的な薬物治療法を学習し、種々の問題点のエビデンスに基づいた解決法を修得する。

### ● 臨床生理化学分野

#### 臨床生化学講座

血中の脂質レベルにも関係するオルガネラの一つであるペルオキシソームの生理的意義や、病気との関係を研究する。

#### 病原微生物学講座

グラム陰性細菌の病原因子である菌体表層多糖の化学的・免疫化学的性状を追跡し、ワクチンへの応用を検討する。

### ● 病院薬学分野

#### 臨床薬物動態学講座

皮膚局所及び全身作用を目的とした薬物送達システムについて、体内および皮内動態解析を用いて開発・評価を行う。

#### 病院薬剤学講座

眼内への薬物の有効なデリバリー法や医薬品試験のための人工膜の開発、軟膏剤の基剤効果の予測等の研究を行う。

### ● 医薬品情報学分野

#### 医薬品情報学講座

医薬品に関する新規情報システムの構築など、臨床の場からの研究課題を発掘・研究し、まとめる力を養成する。

医療や人々の健康に寄与できる  
高度専門職業人、医学と薬学の素養を身につけた  
管理栄養士をめざす。

## 医療栄養学専攻

「医療の中で活躍できる」「高度に機能を有する食品を設計できる」「食毒性を評価できる」高度に専門的な職業人の養成を主たる目的としています。チーム医療に主眼を置き、バイオサイエンスを基盤とした食、薬、毒の生体作用を理解するための基礎知識を習得し、疾病予防への応用、機能性食品の開発に関わる能力の習得も視野に入れたカリキュラムを配備しています。また、薬学部以外の学部出身者も受け入れています。

### ● 医療栄養分野

#### 臨床栄養学講座

生活習慣病の効果的な栄養治療を確立する  
生活習慣病に対する薬剤と栄養素の相乗効果を研究する

#### 病態解析学講座

食品と各種病態との相互作用を評価する  
食品成分による蛋白質糖化への影響を研究する

#### 薬物療法学講座

食品と医薬品の相互作用を評価する  
栄養状態と医薬品の相互作用を検討する

### ● 食品機能分野

#### 食品機能学講座

食品・食品成分の生体機能修飾作用の解明と評価を行う  
疾病予防、治療補助効果を有する食品の設計と評価を行う

#### 分子栄養学講座

栄養素（食品成分）による生体機能調節の分子機構を解明する  
遺伝因子（遺伝子多型）と環境因子（栄養）との相互作用を検討する

#### 予防栄養学講座

食品摂取と生体機能との関連と食事設計を研究する  
栄養指導・教育の有効性を確立する

### ● 生体防御・食毒性分野

#### 生体防御学講座

食毒性発現に伴う生体防御機構の解明を行う  
医薬品と食品との相互作用による毒性評価を行う

#### 食毒性学講座

食品成分の偏りと生体の恒常性の関係を追求する  
食品成分による薬毒物作用の修飾を解析する

#### 細胞生理化学講座

食品成分による消化吸収の修飾を解析する  
食品に由来する成分による毒性発現を評価する

## ● 水田記念図書館

創立者の名を冠した蔵書数35万冊の総合図書館です。薬学研究に必要な自然科学系学術誌の充実はもちろんのこと、Chemical Abstractsなどの抄録誌を取り揃えています。また、総合大学の利点を生かして、他分野の図書・雑誌を大いに利用することができます。



各施設では、最先端の研究、より深い薬学実験、新薬開発などが活発に行われています。



## ● 生命科学研究センター

薬学の研究・教育を支援するとともに、民間からの受託研究・共同研究なども行っています。バイオハザードを有する実験のP-2レベルまで実験可能な感染動物飼育室も有しており、同規模大学にはほとんど見られない水準の施設です。



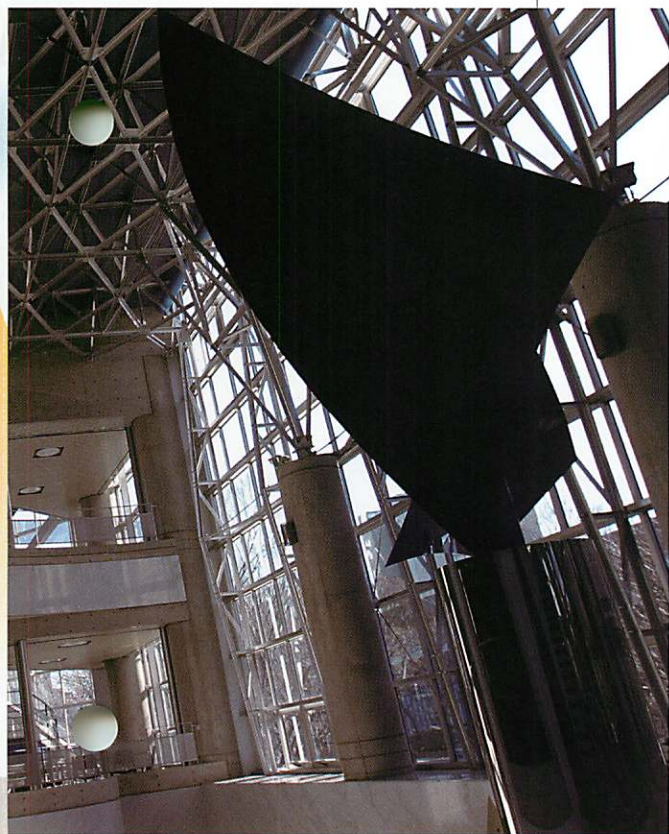
## 医療薬学研修センター ●

医療薬学専攻の大学院生が調剤、製剤、TDM、医薬品情報など実務研修のプレトレーニングの演習・実習を行うための施設です。



## 機器分析センター ●

技術革新により大型化し精密化する計測器をこのセンターで効率よく整備し、運用・管理しています。ガスクロマトグラフ質量分析器、液体クロマトグラフ質量分析器、核磁気共鳴置、単結晶四軸X線回折装置など約40機種を保有しています。高度の測定技術が必要とする装置には専任職員が測定に従事しています。



## ● アイソトープセンター

薬物の代謝、生体成分の代謝、化学反応機構の解明などに放射性同位元素による標識を利用する実験にはこの施設を使用します。また、分子生物学的な手法を用いる研究によるこの施設の使用頻度が増えています。

## ● 6号館実習計算室

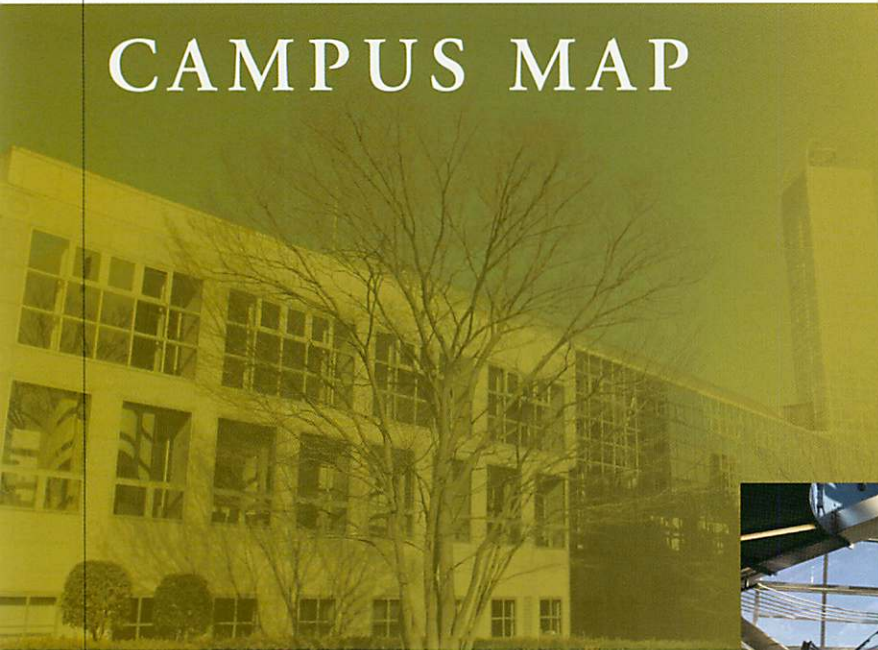
## ● 16号館栄養計算演習室

両室には、コンピュータが計180台、カラー並びに白黒レーザープリンターが設置されており、薬学部学生並びに大学院生は、自由に使用することができます。

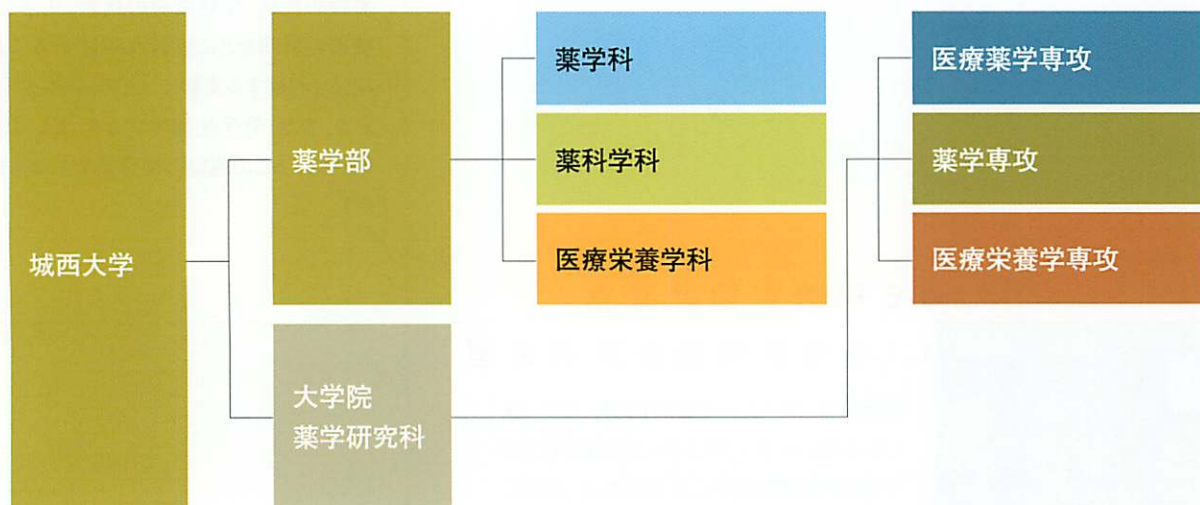




# CAMPUS MAP



## ● 城西大学薬学部組織図





## 学部長あいさつ

「学生中心型の教育」を基本に、  
生き生きと行動する専門職業人を養成します。

城西大学薬学部は、薬剤師養成ばかりでなく、管理栄養士の養成も目標とする我が国でただ一つの薬学部として、地域医療や生活者の視点を強く意識した教育研究を推進している点を特徴としています。

社会に要望される医療人としての薬剤師、管理栄養士および医療に関わる分野で活躍する人材を養成するために、学生中心型の教育を実践することで新しい大学教育をめざしています。それは、今後の医療がサービスを受ける側の患者の意思を考慮する「患者中心の医療」を目標とする以上、大学における医療人養成教育も学生の意思、達成感に配慮する「学生中心型の教育」を基本とすることが必然であり、そのような教育によってこそ、単に大学で知識を得るだけでなく、生き生きと行動する専門職業人の養成が可能であろうと考えるからです。

本年度からの薬学教育6年制にあたって、薬剤師養成の薬学科(6年制) および機能性をもつ化粧品や食品、医薬品の研究開発のスペシャリストを養成する薬科学科(4年制)を新たに設置しました。医療において“薬”を使うことを学ぶ薬学科、“食”を使うことを学ぶ医療栄養学科、そして、新しい“化粧品”、“食品”、“医薬品”を開発することや、それらを生活者の視点で扱うことを学ぶ薬科学科が連携することで、21世紀の新しい薬学教育および薬学研究を提案したいと思います。

城西大学 薬学部長 白幡 晶





交通案内

- 1) 東武越生線「川角」(かわかど) 駅下車。徒歩10分。
  - 2) 関越自動車道「鶴ヶ島インターチェンジ」より車で20分
  - 3) JR八高線「高麗川」(こまがわ) 駅よりシャトルバスで15分。
- ※学生用駐車場有り。



## 城西大学 薬学部

願書請求・問い合わせ先  
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1  
 入試部入試課:TEL.049-271-7711 FAX.049-286-4477  
 薬学部事務室:TEL.049-271-7729

<http://www.josai.ac.jp>